

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 4 年 3 月 22 日

公表:令和 4 年 4 月 1 日

事業所名 希望の丘豊橋

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○		子どもの様子に合わせた配置を行っている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		その時の活動や状況に合わせて工夫している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		クラウドサービスを利用し、いつでもPDCAサイクルを確認できるようにしている。	利用児の支援方法の話し合いや記録の確認等ができる時間を作っているが、勤務体制によっては時間が持てていないことがあるので確保できるよう意識します。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケートでいただいたご意見等、職員間で把握をし、業務改善につなげていきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			今回が第1回目となります。今後年に1度、事業所向け自己評価及び保護者向け評価を実施し、その都度ホームページにて公表していきます。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在外部評価は受けていないので、今後検討します。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		コロナ禍の為困難。	コロナ禍の為中止になる研修もありますが、研修に参加できる機会は確保しています。職員に研修案内が周知されていない部分があるので伝わるようにします。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			それぞれの年齢の発達段階は知識として職員の中にありますが、標準化に重点を置かず、子ども一人ひとりの発達や特性に応じた支援をしています。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			支援計画には必要な項目の選択、具体的な支援内容の設定がされ、職員がいつでも確認できるようにしていますが、それがガイドラインに沿ったものという認識が全ての職員に伝わっていなかったため、周知に努めます。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			勤務時間上、立案に加わっていない職員もいる為、改善しチームとしての意識をより高める努力をします。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			子どもの姿に寄り添った活動を、その都度柔軟に考え行うようにしています。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始後は、利用児の様子やその日あった出来事を共有できている。	前日または当日に、利用児の確認や役割分担を行っています。細かな話し合いは、勤務時間開始のバラつきから、当日行うのが難しいため、支援終了後に次回の支援として情報共有を行っています。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			地区担当の保健師や、子育て支援センターの職員、こども園の職員などと情報共有・支援方法の話し合い等行い連携して支援しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				対象者なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				対象者なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	△			開所間もないので移行支援としての対象者がいませんが、今後行っていききたいと思います。特別支援学校への施設見学等は参加しています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			研修は出来ていないが連携はできている。自分自身は受けていないが、他の職員は受けていた。	コロナ禍の為難しい部分もありますが、今後、可能な範囲でいろいろな職員に研修等受けてもらえる機会を設けます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			大半の利用児の通園するこども園が近いので、交流の機会が十分にある。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している			○		機会があれば参加していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	△	○		現在必要だと感じる保護者はいないが、知識・情報は全職員が入れている必要があるのかと思う。	必要な方へは、施設等で行っている支援方法を伝え、保護者支援をしています。当施設では、一緒に考え共に育つスタイルを大切にしています。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	△		今現在できていない。保護者同士の交流の機会を作りたい。今後の課題の1つだと思う。	保護者同士のつながりが持てるような機会を、土曜日開所等で設けていきます。現時点で1度しか行っていないので、交流を深める機会を作りたいと思っています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			今日の出来事なども1つずつ丁寧に伝えていきたい。会報は無いですが、連絡はしていると思う。	クラウドサービスを利用して発信していますが、保護者の方の受信状況は把握できていないので、場合によっては紙面でも伝えることを検討していきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○				
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	行事自体が出来ていない。コロナ禍の為困難である。	コロナ禍の為できていません。今後、状況の変化によって検討していきます。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	/	/	現在対象者なし	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	△	○	報告書でまとめておくなど。事例集ではないが、振り返りで共有はできていると思う。	職員間での話し合いや一覧表、報告書の作成はできていますが、事例集については今後作成していきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修はないが、日頃から職員間のコミュニケーションや連携がしっかりとれているので虐待が起こる環境ではない。	コロナ禍で会議が中止になり、行おうとしていた虐待防止に関する話し合いが全職員で行えていません。研修機会が確保できるまでの間、虐待防止責任者による防止には努めてまいります。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	△	身体的拘束について話したことがない。 現在必要な子がいない。	現在対象者になり得る利用児はいませんが、身体拘束に関する職員の知識向上には努めていきます。

※この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。